



代表取締役
松村 宗夫



50年の伝統に甘んじず信頼を積み上げ さらなる高みを目指す建設会社

土木工事、鷹工事、解体工事などを手掛ける『三基興産』。創業約50年と長い伝統を誇り、多方面からの信頼を培ってきた建設会社だ。父親から代を引き継ぎ、同社を牽引するのは松村社長。これからの良い仕事を行うことで、さらに揺るぎない会社にしていきたいと展望を語る社長のお話を、タレントの島崎俊郎氏が伺った。

——『三基興産』さんは大変長い伝統を持つ会社だと伺って参りました。まずは御社の沿革からお聞かせ下さい。

当社は父が1968年に創業した会社で、建築・土木・解体・足場・舗装など広範囲の工事を手掛けています。父は誠心誠意仕事に取り組む人で、父が運営しているころは高度成長期だったこともあって景気も良く、私も早くから経営をしたいという気持ちを持って育ちましたね。そして高校卒業後すぐに家業に入り、やがて父から代を引き継いだのです。

——では、この道一筋に歩んでこられたのですね。

ええ。それから私は『三基興産』とは別に個人で会社も立ち上げておりましたね。その会社も『三基興産』共々売上を

伸ばしているんですよ。

——お父様の会社、ご自身の会社の両方で成功されているのですか！ そうした成功を収めることができた要因は何だと考えておられますか。

「現場が営業」と、結果を出すことを大事に仕事を行ってきたからだと思います。当社は昔から、営業も接待もせず、その代わり質の良い仕事を遂行するというやり方をずっと続けてきました。今は徐々に景気が悪くなってきて、接待で仕事をいただくのも難しくなり、こうした結果重視のスタイルが正統派になってきていると感じますね。それから、お仕事をいただいているところであっても、意見を通さなければいけない場面ではしっかりとお伝えし、プライドを持って仕事に当たっていますよ。

——質の高い仕事を行っているという自信を感じますね。経営においてはどのような方針を採っておられるのでしょうか。

自分のやり方に固執せず、どのようなやり方が正しいか、皆で突き詰めて考えています。当社では3人の弟も一緒に働いているのですが、弟たちも含めて社員に意見を押しつければせず、しっかりと話し合い、納得してもらえるようにし

ているんですよ。

また、下請けの人たちに「仕事をさせてあげている」というような接し方は絶対にしないようにしていますね。私は働いている一人ひとりに対して、「この人がいなければ自分のポジションも成り立たない」と考えていますから。

——御社で働く方々への信頼のほどが窺えますよ。お話も尽きませんが、最後に今後の展望についてお聞かせ下さい。

この会社は父が懸命に仕事に取り組み、信用を築いてきた会社です。今は銀行さんの方から「お金を借りてほしい」と言われることもあるんですよ。父が残してくれた信用は大きな財産で、とても感謝しています。私も自社ビルを建てたり、マンション経営をしたりして会社をさらに成長させ、より確かな信頼を築いていきたいですね。

(取材／2017年2月)



ゲスト
島崎 俊郎

京都府知事許可 第36416号
有限会社 三基興産

京都府京都市南区八条大宮西入八条町475-2

「松村社長は仕事において緩急をつけることを大事にしているそうです。たとえば、仕事が早く終わった日は余暇を楽しむよう従業員さんに促しているのだとか。そうしたメリハリも皆さんのモチベーションとなり、良い成果につながっているのでしょうか。」